

令和8年9月29日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問） 子供の頃からの健康づくりと健康教育の充実について

生涯にわたる健康づくりに向け、保健体育や食育、健康診断、保健指導などを相互に関連付けながら、児童生徒が自分の身体や生活習慣を客観的に捉え、学んだ知識をより良い行動の選択と実践につなげる力を育むため、今後、学校における健康教育をどのように充実させるのか、教育長の所見を伺う。

（答）

学校における健康教育につきましては、児童生徒の発達段階を考慮し、生涯を通じて健康な生活を送るための基礎を培い、より良い行動を自ら選択し、実践できる力を育むことが必要であると認識しております。

このため、保健体育や家庭科などの各教科等における指導を相互に関連付けながら、知識の習得だけでなく、児童生徒が自分の健康情報を実生活と結び付けて考え、実践していく力を育むよう取り組んでいるところでございます。

例えば、小学校では、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることの必要性について学習し、自分の日常生活を振り返りながら、自らの健康に関する課題を見つけ、課題解決に向けて、今後取り組むことを考えるといった学習活動を行っております。

また、中学校においては、家庭科で学んだことを基に、自らの食習慣を振り返り、栄養バランスの良い献立をグループで協働して考え、実際に家庭で調理し、発表し合うなど、食育に係る実践的な学習を行っている学校もございます。

県教育委員会といたしましては、こうした好事例について、学校の保健主事や栄養教諭等を対象とした研修において共有するとともに、教科等での実践と関連付けた指導の工夫について指導・助言しているところでございます。

今後も、児童生徒一人一人が生涯を通して健康で安全な生活を送ることができるよう、優れた実践事例の普及を図るとともに、教科横断的な研修を充実し、各学校における健康教育の充実を図ってまいります。